平成23年３月11日、東日本大震災では、想定外と言われた巨大な津波が押し寄せ、未曾有の被害をもたらした。写真は、海岸に押し寄せる津波の様子。久慈市提供。

特集

それは、遠い国の話ではない

問合せ　危機管理課☎㉚9102

未曾有の被害をもたらした東日本大震災。
しかし、それは対岸の火事ではありません。
近い将来起きると予想されている、南海トラフ巨大地震―。
最大震度６弱、3.6m（海抜）の津波、
国が行った被害想定では、広島県内最大で、
建物の全壊が約24,000棟、死者約800人、負傷者約11,000人※。
今、少しだけ考えてください。その時、何ができるのかを―。

南海トラフ巨大地震

南海トラフは、四国の南の海底にあり、東海付近から九州近辺まで伸びている深い溝のこと（図１）。日本列島が位置する大陸のプレートの下に、海洋プレートのフィリピン海プレートが南側から年間数センチの割合で沈み込んでいます（図２）。この沈み込みに伴い、２つのプレートの境界にはひずみが蓄積されています。

過去1,400年間を見ると、南海トラフでは約100～200年の間隔で蓄積されたひずみを解放する大地震が発生しており、近年では、昭和東南海地震（1944年）、昭和南海地震（1946年）が発生しています。この二つの地震が起きてから70年近くが経過しており、南海トラフにおける次の大地震発生の可能性が高まってきています。

また、南海地震、東南海地震は、東海地震とあわせて３連動して起きる可能性も高く、この場合は巨大な地震になるとされ、この地震を南海トラフ巨大地震と呼んでいます。

この巨大地震は、1,000年に１度あるいは、それより発生頻度が低いとされ、次に起こる南海トラフによる地震がこの最大クラスのものとは限りませんが、事前の対策を十分に行う必要があります。

国では、南海トラフ巨大地震に関する検討を行い、特に津波対策を中心として、取り組むべき対策などを取りまとめました。

また、広島県では東日本大震災を踏まえ「地震被害想定調査検討委員会」において、平成17年３月に作成した「広島県津波浸水予測図」の見直しを行い、新たな「広島県津波浸水想定図」を今年３月に作成し、想定される津波の高さなどと併せて公表しました。

見直しにあたっては、あらゆる可能性を考慮し、「最大クラスの津波」（発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波）および「津波到達時間が短い津波」を選定し、新たに瀬戸内海域活断層などについても検討されました。

どんな被害が起きるのか

国が行った被害想定では、広島県では最大で、建物の全壊が約２万4,000棟、死者数800人、負傷者１万1,000人と大きな被害が想定されています。また、水道、電力、ガスなどライフラインも大きな被害を受けるとの想定がされています。

※現在、広島県では詳細なデータを用いた被害推計を行っています

地震や津波に対しての備え

この最大被害想定は、最大クラスの地震が発生した場合で「何の対策もしなかった場合」のもの。被害を想定し、早めの避難や、避難の呼びかけを行ったり、家具の転倒防止対策を行ったりした場合、死者数は大幅に減少し、また、建物の耐震化により、全壊する建物数は大幅に減るとされています。

必ずしも次に起きる地震が最大クラスのものとは限りませんが、もし、それが発生したとしても適切な対応をすることで確実に人的被害を減らせると考えています。

市では被害を減少させるため建物の耐震化を推進していくほか、津波から命を守る対策として、新しい津波・浸水ハザードマップの作成・配布、海抜表示板の設置、津波避難ビルの指定などに取り組みます。

■津波・浸水ハザードマップ

今年度、「広島県津波浸水想定図」をもとにした、新しい津波・浸水ハザードマップを作成し、廿日市地域・大野地域・宮島地域の全世帯に配布する予定です。

事前にこのマップで家の近所の浸水箇所や避難所、高台までのルートを確認するなど、地域や家庭で避難計画を立てる際の参考にしてください。

■海抜表示板の設置

海抜表示板はその土地の高さを示した表示板です。普段から防災意識を高め、その土地の高さを知り、津波が発生したときに安全な高さまで避難するための参考にしてもらうため、海抜表示板の設置を進めています。

昨年度、海抜８ｍ以下の市の指定避難所へ設置し、今年度は、沿岸部の海抜５ｍ以下の避難所以外の公共施設や電柱などに設置します。

■津波避難ビル

津波が発生した際に、近くの高いビルなどに避難できるよう、高層の建物を一時避難所とするものです。事前に建物の所有者や管理者と協議し、承諾が必要です。今後、所有者や管理者にご協力いただけるよう働きかけ、津波避難ビルの確保に取り組んでいきます。

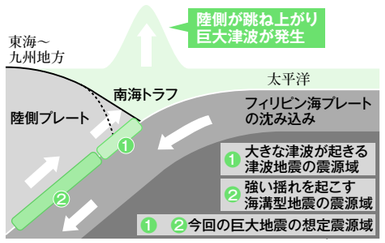
■廿日市市で予想される震度や津波の高さ（広島県の想定）

最大震度　６弱
１㎝以上浸水する範囲　最大343ヘクタール
津波の高さ・到達時間

南海トラフ巨大地震			瀬戸内海域活断層など		
最高津波水位（津波の高さ）	最大波到達時間	津波影響開始時間	最高津波水位（津波の高さ）	最大波到達時間	津波影響開始時間
3.6m（1.6m）	218分	26分	2.7m（0.7m）	42分	０分

※「最高津波水位」は、東京湾平均海面（海抜０ｍ）が基準。「最大波到達時間」は、廿日市市に津波の最高到達高さが生じるまでの時間。「津波影響開始時間」は、海域を伝播してきた津波により初期水位から20cmの変化が生じるまでの時間

■図２　南海トラフの巨大地震と津波の仕組み



■図１　３連動型地震の震源域と南海トラフ